

「VICTORY！」は、『湘南ベルマーレ』というJリーグクラブのホームタウンに住むみなさんに、サッカーを通じてより多くの人とふれあい、地域への思いを深め、スポーツの楽しさを体感していただきたい。そんな願いを込めてASAがお届けする情報紙です。

企画・制作 / 株式会社 朝日新聞経営研究センター 協力 / 株式会社 湘南ベルマーレ

FW 古橋 達弥



No.18



Tatsuya Furuhashi

ゴール前のかけひきに自信あり。

ボールがラインを越えたり、ファウルがあってプレーが止まったときは一度ボールを静止させ、試合を再開する。ボールをセットし直すことから「セットプレー」と呼ばれている。このコーナーキック（CK）やフリーキック（FK）などセットプレーからの得点が少なかった、昨年までの湘南ベルマーレ。逆に今季は多くの得点がセットプレーから生まれている。その中でも山形から移籍加入したベテラン古橋達弥選手はここまでCKから4点、FKから2点の計6得点を演出。（14節終了時点）右足から繰り出す正確なキックが、チームの得点力の高さを支えている。しかし古橋選手の持ち味は、セットプレーだけにとどまらない。

連休中の4連戦、勝ちきれない試合が続きましたが。

試合を重ねていくごとに気持ちの余裕が悪い方に出て、緊張感が足りなかったり、精度を欠くプレーに表れてしまっていたと思います。開幕当初はできていたことなので、全員が意識して試合に臨めば十分修正ができると思っています。長いシーズンですから、ずっと調子がいいわけではない。いかに早く建て直すかも上位で戦っていくうえでは大切なことです。

自分がプロになってやってきた中で、ベルマーレが一番攻撃的なチーム。自分たちが主導権を握って、守備も攻撃もどんどん前からいくアグレッシブなスタイル。平均年齢も若く（24歳弱）よく走るチームだけれど、自分の年齢のことはあまり考えていないですよ。ただベテランとしての役割はあると思うので、チームがうまくいっていないときは声を出して下を向かないように引っ張っていくようにしています。調子のいいときは、みんなほっといてもいいプレーができるから（笑）、むしろ自分が若いメンバーに負けずに食らいついていきますね。練習から本当にハードなので、ベテランだからといって負けてられないです。

選手としてのスタートはJFLだったんですね。

磐田東高校を卒業した1999年にJFLの本田技研（現・Honda FC）に入団し、会社員として働きながらサッカーをしていました。なにがなんでもプロへという気持ちでもなかったんですね。当時チームメイトには、カターレ富山の安間監督やガイナレ鳥取の吉澤監督がいました。そこでいいコーチに恵まれ、成長できて2004年のシーズン途中にJ1のセレッソ大阪に移籍しました。

当時からフリーキックは任されていたのでしょうか。

ベルマーレに来てからは、ほとんど自分が蹴っていますが、セレッソや山形るときはそうでもなかったです。ベルマーレではセットプレーからの得点が多いので、もっと精度を上げてFKから直接ゴールも決めたいですね。FKは、壁（ゴール前にシュートを防ぐために並んでいる相手選手）の上を狙って、壁を越えたところで落ちるように回転をかけた速いボールを蹴っています。近い距離ほど難しい。蹴りやすい場所は、ペナルティエリアから5mくらい離れた真ん中より少し左。そのあたりからFKを蹴るときは確実にゴールを狙っているので注目してください。

そのほかに古橋選手のプレーの見所を教えてください。

僕は身長も高くないし足も速くないので、相手をひとりかわしてドリブルでゴール前へ、というタイプではないです。だからゲーム中は、相手の裏（ゴールを背にして守っている選手のうしろ）に飛び出したり、相手が嫌がる場所でボールを受けて、ゴールにつながるプレーができればいいと思っています。具体的には、相手が予測できない場所に動き出して、動こうとしている逆をついたり、見ていないところに動いてボールを受ける。そうすれば相手選手が僕につられて動くので、味方の選手をフリーにさせることができます。そんなゴール前のかけひきを見てください。タイミングや場所など動きの質を高く、パスの精度を上げるなど、もっとレベルアップして得点に絡んでいきたい。

途中出場るときはどんなことに気をつけていますか。

途中交代で出場するというのは難しいんですよ。ピッチの中にいる選手と比べると疲れていないし、案に見えるかもしれないけれど、急にその試合の流れに入っていくのは難しい。外でウォーミングアップをしても、実際の試合とはスピードが全然ちがうので、いきなり走って息が上がってしまったり、脚がパンパンに張ってしまうこともよくあります。控えてベンチにいるときは、アップをしてコンディションを上げながら、試合の流れもちゃんと見ておかなければいけない。流れの悪いときに交代で入ったときは、うしろの選手が前線にパスを出せるようなポジションに動くことで、攻撃の起点を作れるようにしています。

コンディションを保つために心がけていることは？

よく寝ること、よく食べることです。栄養のバランスを考えた食事にサプリメントでビタミンを補給したりしています。あとは身体のケアをしっかりすること。

メンタルの部分では、気持ちの切り替えです。調子が悪いからと言って落ち込んではいられない。次に結果を出せば自分のためにもチームのためにもなる。できるだけ先のことを考えて気分転換します。

験（げん）を担ぐということはしませんね。何かをして勝ったとしても、ずっとそれだけで勝ち続けられるわけではないので、そういうことに惑わされずになりたいと思っています。むしろ次は勝ったときと違うことをするかもしれない。たとえばこのパンツを履いて勝ったとしても、次は違うパンツでも勝てるんだ、ってね。

試合前のバスの中で、リラックスするために音楽を聴いたりします。よく聞くのはEXILE、Mr.Children、ゆず。とくに、ゆずの「栄光の架橋」はモチベーションが上がるのでよく聴いています。

湘南ベルマーレのアピールポイントをお願いします。

できるだけ前でボールを奪って積極的にゴールに攻め込む。このスタイルを最後まで貫いていくことは監督も明言しているので、そんな「湘南らしさ」をぜひスタジアムに見に来てください。「たくさん点を取って勝つ」面白いゲームを見せられるように、日々のトレーニングで努力を重ねています。

（インタビューは2012年5月10日に実施）

episode

EXILEのAKIRAは後輩

磐田東高校のサッカー部で1年後輩だったのがEXILEのメンバーAKIRAと黒澤良平さん。当時からサッカーと並行してダンスも始めていたようだが、古橋選手は知らなかった。卒業後もサッカー部のOB会などで何度か顔を合わせダンスをしていることを聞いたが、その後すぐにEXILEとしてメジャーに。「コンサートにも4〜5回行かせてもらいました。もう雲の上の存在です（笑）」。

接触プレーで意識不明に！その相手は…。

セレッソ大阪に在籍していた2007年、J2リーグで湘南ベルマーレとの試合中に、ゴールに向かう古橋選手と湘南のゴールキーパー金永基選手が激突。古橋選手は脳震盪（のうしんとう）をおこしてしまい、担架で運ばれ10数分間意識が戻らなかった。その後の検査の結果、異状はなく、すぐ復帰したのだが「湘南に移籍してきて初めて永基（ヨング）に会ったとき、そのことを謝られました。僕は、もう相手が誰だったか忘れていたんですけど。ただ、あのときは、翌日ゴルフに行く予定だったのに行けなくなってしまって残念だったことは覚えています」。

古橋 達弥（ふるはしたつや） Profile

1980年11月7日生まれ（31歳） 静岡県浜松市出身
磐田東高校を卒業後、JFLの本田技研（現・Honda FC）に入団、エースストライカーとして活躍する。14試合連続得点は現在でもJFL記録として破られていない。2004年にセレッソ大阪、2009年モンテディオ山形へ。2012年湘南ベルマーレに移籍加入。172cm / 70kg